

## 提言項目検討の進め方

次回全体会(2月17日)においては、提言の柱ごとに、提言項目を検討していただきます。提言項目の検討は、下記の流れにより検討する予定です。

### 記

#### 1 検討資料 別添資料「委員意見一覧【柱別】」

資料の見方は、裏面の『「委員意見一覧【柱別】」説明』をご参照ください。

#### 2 全体会の進め方

小分類ごとに、提言に含めるべき項目かどうかの審議を行います(「提言採否」欄に × を記載)。

小分類の内容によっては、深く審議を要する項目もあります。その場合には、すべての提言項目を決定する必要があり、時間的な制約があることから、一旦保留とし(「提言採否」欄は を記載)とし、全体の小分類の審議を行った後に再審議を行います。

で検討し提言に盛り込むべきとした小分類をどのように組み合わせ、提言項目とするかの審議を行います。

事務局が便宜上分けた大分類は考慮しなくても結構です。複数の大分類を合わせて一つの提言項目にしたり、一つの小分類のみで提言項目としたりすることもできます。

例 P1 「1 成果指標」と P3「2 目標値の設定」を合わせて、1つの提言項目とする。ただし、の審議により「提言採否 ×」となった小分類「b【〜〜〜】」は除外する。

例 P18 「3 評点」d【評点決定時期・方法の見直し】のみで一つの提言項目とする。

#### 3 事前準備のお願い

次回全体会は、上記「2 全体会の進め方」により行いますので、「委員意見一覧【柱別】」をご覧いただき、「提言採否」欄および提言項目について事前にご検討ください。

# 「委員意見一覧【柱別】」説明

## 「柱」

第3回全体会において検討した「柱」をもとに、事務局が作成した「たたき案」です。

### 柱 1 成果重視の行政経営を一層推進するために

#### 大分類 1 成果指標

##### 小分類 a【成果指標の理解不足】

No.	委員意見	提言採否
1	目指す状態を明らかにできれば、成果指標は、その目指す状態を表す言葉(用語)であり、難しいものではないと考える。他の自治体の担当者に成果指標という用語に感わされている、戸惑っている人がいるように思われ、残念である。	
2	「成果」なる言葉の理解を徹底すべきと思う。ここで言う「成果」は「アウトカム」の意味であり、評書に単独に出ている活動の「結果」ではなく、複数の活動が有機的に組み合わせられてもたらされる「複合結果」のことである。(2005年頃から旧厚生労働省等でも使用されている)。「成果指標」は今後、始めから「アウトカム指標」と言い換えた方が良いかもしれない。「アウトカム」は、内部のみではなく、外部(アウト)特に地域社会(区内)にどの様な効果を生み出したかを考えることから始まる。	
3	成果指標の解釈が不十分なままに内部施策評価が行われているケースが目立った。例えば、介護保険施設の整備率や選定された事業者数などのような、実行・活動結果を成果指標としていた。(施策244等)実行指標を「アウトカム」指標と勘違いしているケースである。	
4	成果指標の解釈が、不十分な上に、その目標値の設定も的外れであり、殆どの施策で、第三者による「目標値の妥当性の評価」が低かった。	
5	「アウトカム」の目標設定が理解されていないために苦勞して居られるケースが多かった。例えば、「施策125:児童・生徒の健やかな体の成長を促す」に於いて、「朝食に主食やおかずをそろえて食べた生徒の割合」や「就学時健康診断受診率」を成果指標にしていたが、同じ政策内の他の施策(123)にある「児童・生徒の健康と体力の現状の測定結果」が立派なこの「アウトカム」指標であり、部内で協議し、指標を共有すれば区民から見ても判り易く、良い評価になったはずである。	
6	両者は、どのような視点で関連しているのか統一性が保たれていないので、分かりにくい。特に施策と事務事業の成果指標と目標値の不透明、施策評価の長期と短期の不明瞭さ、事務事業では事業毎の不統一などがあり、もっと分かり易くすべきである。	

## 大分類

意見を整理するにあたり、便宜上つけた分類です。提言項目を検討するにあたって、この分類により制約されるものではありません。

##### 小分類 b【指標設定のための全庁的取組】

No.	委員意見	提言採否
7	成果指標と目標値の設定は、非常に難しいものではあると思うが、目標値と成果指標がかけ離れている場合や行政の怠慢ではないかと思うものもあったように思われるため、日々の業務の成果が正しく反映されるような指標について、所管課内はもちろん、所管課の枠を超えて検討し合うような機会があっても良いのではないかと考えられます。	
8	区民の満足度も含め、質的な達成度を成果指標に含めることが依然として必要です。また、実態がわかりにくい延人数を指標にしたり、受講することが義務の研修の出席率を指標にしたり、明らかにおかしな指標が散見されました。目標値については、見直しで制度化されていないため、すでに数年前に100%達成した目標値を使い続けているケースが複数ありました。また、大部分の施策において、サービスを必要とする全体数がわからないなど、目標値設定の根拠が不明でした。全体的に指標の設定は難しいと思いますが、以上のことは、前回は提言したように思います。指標設定の全体研修を行うとか、或いは、達成してしまった目標値は、見直しを行うことを求めるなどの対応が必要と考えられます。	

## 小分類

同様の意見をまとめた分類です。提言をまとめるにあたって、「提言文」、「提言の説明」のエッセンスとなる部分です。小分類ごとに提言のエッセンスとして含めるのかどうかを検討していただきます。